



Cisco CIMC ファームウェア アップデート ユーティ リティ ユーザ ガイド

Cisco UCS C シリーズ サーバ向け

2010 年 9 月 17 日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ファームウェア アップデート ユーティリティ ユーザー ガイド
© 2010 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに

ここでは、『Cisco CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティ ユーザ ガイド』の構成および表記法について説明します。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

章番号	章タイトル	説明
1	「CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティのインストール」	ファームウェア アップデート バイナリ ファイルのサーバへのインストールに関する情報が含まれています。
2	「CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用」	ファームウェア アップデート ユーティリティを使用して、サーバのファームウェア バージョンを更新するための情報が含まれています。
3	「トラブルシューティング」	表示されるエラー メッセージとユーティリティの使用中に発生するかもしれない問題のトラブルシューティングに関する情報が含まれています。

関連資料

Cisco UCS C シリーズ ラック マウント サーバのマニュアルは、次の URL で入手できます。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CONTENTS

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティのインストール 1-1

概要 1-1

前提条件 1-1

Linux サーバへのインストール 1-1

EFI シェルを使用したユーティリティのインストール 1-3

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用 2-1

概要 2-1

ファームウェアの最新バージョンの確認 2-2

最新のファームウェア バージョンのダウンロード 2-2

最新バージョンにファームウェアを更新 2-3

ファームウェア更新の状態の確認 2-4

最新のファームウェアのアクティブ化 2-5

旧ファームウェアのバージョンへの復帰 2-5

トラブルシューティング 3-1

エラー メッセージについて 3-1

問題のあるシナリオ 3-2



CHAPTER 1

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティのインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- 「概要」 (P.1-1)
- 「Linux サーバへのインストール」 (P.1-1)
- 「EFI シェルを使用したユーティリティのインストール」 (P.1-3)

概要

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティは、スタンドアロン サーバのホスト (x86) ベース システムのファームウェア バージョンの更新に使用されます。ネットワーク上にないシステムファームウェア バージョンを更新するために、このユーティリティを使用します。

前提条件

このユーティリティを使用するには、以下の注意が必要です。

- ラックマウント サーバは、Intelligent Platform Management Interface Specification (IPMI) v2.0 準拠である必要があります。
- サーバは、Linux オペレーティングシステムを実行しているか、EFI シェルに起動される必要があります。
- Linux サーバでこのユーティリティを使用する場合は、**root ユーザ**または**スーパー ユーザ**としてログインする必要があります。

Linux サーバへのインストール

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティは、バイナリ ファイルであり、インストールに他のファイルは必要ありません。インストールする必要があるのはバイナリ ファイルのみです。

Linux サーバにこのユーティリティをインストールするには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** 次の場所から、USB フラッシュ ドライブにソフトウェア コンテナをダウンロードします。
- www.cisco.com > [Products and Services] > [Unified Computing] > [All Products] > [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers] > [Download Software]。

このページで、適切なサーバを選択し、[Unified Computing System (UCS) Software Container for Rack Mount Servers] を選択します。

USB フラッシュ ドライブにファームウェア アップデート ユーティリティとイメージ ファイルをダウンロードするまで、画面の指示に従います。ユーティリティとイメージ ファイルは、圧縮ファイルと一緒に入っています。

- ステップ 2** コンテナ ファイルを解凍します。ファームウェアの最新バージョンを含むフォルダが作成されます。このフォルダには、次のフォルダが含まれています。
- **bios**
 - **cimc**
- ステップ 3** **cimc** フォルダに移動します。2 つの圧縮ファイルが入っています。fwup-1.x.x.zip という名前のファイルを解凍します。
- 次のフォルダが作成されます。
- **linux**
 - **uefi**
- ステップ 4** **linux** フォルダに移動し、fwup-v1_x.tgz ファイルを解凍します。
- ユーティリティ ファイルがフォルダに抽出されます。
- ステップ 5** サーバですでに Linux オペレーティング システムが実行されていない場合は、サーバを Linux オペレーティング システムで再起動します。
- ステップ 6** **root** ユーザまたはスーパー ユーザとしてサーバにログインします。
- ステップ 7** **service ipmi status** コマンドを使用して、**ipmi service** が実行されていることを確認します。
- このサービスが実行されていない場合は、次のコマンドを入力してください：
- service ipmi start**
- ステップ 8** USB フラッシュ ドライブをサーバに接続し、標準の **Linux mount** コマンドを使用してフラッシュ ドライブをマウントします。
- ステップ 9** 接続された **SCSI** デバイスのリストを表示するには、**fdisk-l** コマンドを使用します。
- USB フラッシュ ドライブが接続デバイスとして表示されます。
- ステップ 10** フラッシュ ドライブのユーティリティに移動します。
- ステップ 11** ユーティリティ ファイルを USB フラッシュ ドライブから実行しない場合は、サーバ上のフォルダにファイルをコピーして、このフォルダからユーティリティを実行することができます。
- ステップ 12** **fwup** コマンドを使用して、ユーティリティを実行します。
- インストールが完了すると、このユーティリティを使用して CIMC のファームウェア バージョンを更新することができます。詳細については、[第 2 章「CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用」](#) を参照してください。



(注)

Linux サーバから CIMC ファームウェア更新ユーティリティを削除するには、標準の Linux の **rm** コマンドを使用して、フォルダからファイルを削除します。

EFI シェルを使用したユーティリティのインストール

EFI シェルを使用してサーバにユーティリティをインストールするには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** 次の場所から、USB フラッシュ ドライブにソフトウェア コンテナをダウンロードします。
www.cisco.com > [Products and Services] > [Unified Computing] > [All Products] > [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers] > [Download Software]。
このページで、適切なサーバを選択し、[Unified Computing System (UCS) Software Container for Rack Mount Servers] を選択します。
USB フラッシュ ドライブにファームウェア アップデート ユーティリティとイメージ ファイルをダウンロードするまで、画面の指示に従います。ユーティリティとイメージ ファイルは、圧縮ファイルと一緒に入っています。
- ステップ 2** コンテナ ファイルを解凍します。ファームウェアの最新バージョンを含むフォルダが作成されます。このフォルダには、次のフォルダが含まれています。
- **bios**
 - **cimc**
- ステップ 3** **cimc** フォルダに移動します。2 つの圧縮ファイルが入っています。fwup-1.x.x.zip という名前のファイルを解凍します。
次のフォルダが作成されます。
- **linux**
 - **uefi**
- ユーティリティ ファイルは、**uefi** フォルダにあります。
- ステップ 4** サーバを EFI シェルに再起動します。
- a. サーバをリブートします。
 - b. コンソール画面を確認し、指示が表示されたら、F6 キーを押して [Boot Options] メニューを開始します。
 - c. [Boot Options] メニューで、[EFI Shell] を選択し、Enter キーを押します。
- ステップ 5** サーバに USB フラッシュ ドライブを接続します。
- ステップ 6** **shell > map -r** コマンドを使用して、システムにストレージ デバイスをマップします。
- ステップ 7** **shell > fs0: or fs1:** コマンドを使用して、シェルをマップされているデバイスのファイル システムに変更します。
- ステップ 8** **fs0** ディレクトリから、プロンプト上でユーティリティを実行します。
fs0:> fwup.efi <options>
- インストールが完了すると、このユーティリティを使用して CIMC のファームウェア バージョンを更新することができます。詳細については、第 2 章「CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用」を参照してください。



(注) EFI シェルを使用してユーティリティを削除するには、**del** コマンドを使用します。



CHAPTER 2

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用

この章は、次の内容で構成されています。

- 「概要」 (P.2-1)
- 「ファームウェアの最新バージョンの確認」 (P.2-2)
- 「最新のファームウェア バージョンのダウンロード」 (P.2-2)
- 「最新バージョンにファームウェアを更新」 (P.2-3)
- 「最新のファームウェアのアクティブ化」 (P.2-5)
- 「旧ファームウェアのバージョンへの復帰」 (P.2-5)

概要

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティは、スタンドアロン サーバのホスト (x86) ベース システムのファームウェア バージョンを更新するために使用します。ファームウェアを更新するには、Linux オペレーティング システムまたは EFI プロンプトにホスト システムを再起動します。ファームウェア バージョン更新の手順に、KVM を使用することもできます。Linux、EFI、KVM を使用してファームウェア バージョンを更新する手順は同じですが、新しいファームウェア バージョンでアクティブにすると、CIMC への接続はリセットされ、KVM ウィンドウが閉じることに注意してください。

ファームウェアを更新する前に、ラックマウント サーバが Intelligent Platform Management Interface Specification (IPMI) v2.0 準拠であることを確認します。また、**root ユーザ**または**スーパー ユーザ**としてログインする必要があります。

サーバのファームウェア バージョンを更新するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** システムにインストールされているファームウェアの現在のバージョンを確認します。
- ステップ 2** 最新のファームウェアのバージョンのイメージをダウンロードし、サーバのディレクトリにコピーします。
- ステップ 3** ファームウェア バージョンを更新します。
- ステップ 4** 新しいファームウェアをアクティブにします。

以降のセクションでは、これらのステップの詳細について説明します。

このマニュアルでは、Linux サーバで使用されるコマンドを示します。同じコマンドを EFI プロンプトで使用するには、コマンドの後ろに **.efi** を追加します。たとえば、現在インストールされているファームウェア バージョンを Linux サーバに表示するには、次のコマンドを入力します。

./fwup cimc show version

現在インストールされているファームウェア バージョンを EFI プロンプトに表示するには、次のコマンドを入力します。

fwup.efi cimc show version

ファームウェアの最新バージョンの確認

バージョンを更新する前に、サーバにインストールされているファームウェアの現在のバージョンを確認します。ファームウェアの現在のバージョンを確認するには、コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。

./fwup cimc show version

このコマンドに対して、次の表示が出力されます。

```
Copyright (c) 2010 Cisco Systems Inc.  
All rights reserved.
```

```
CIMC Firmware  
-----  
Running Version: 1.2.0.14  
Backup Version: 1.2.0.14  
Boot-loader Version: 1.2.0.14.6  
Primary Image Index: 1  
Active Image Index: 2
```

この出力の意味は次のとおりです。

- [Running Version] は、サーバのプライマリ スロットにあるバージョンです。
- [Backup Version] は、サーバのセカンダリ スロットにあるバージョンです。
- [Primary Image Index] は、該当ファームウェア バージョンが動作している現在のインデックスです。
- [Active Image Index] は、ファームウェア バージョンが更新されてアクティブになった後に、該当ファームウェア バージョンが動作するインデックスです。

最新のファームウェア バージョンのダウンロード

CIMC の現在のバージョンを確認したら、次の手順を使用して、最新のファームウェア バージョンのイメージ ファイルをダウンロードします。

ステップ 1 次の場所からイメージ ファイルをダウンロードします。

www.cisco.com > [Products and Services] > [Unified Computing] > [All Products] > [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers] > [Download Software]。

このページで、適切なサーバを選択し、[Unified Computing System (UCS) Software Container for Rack Mount Servers] を選択します。圧縮ファイルが、ローカル システムにダウンロードされます。

ステップ 2 システム上でファイルを解凍します。フォルダ構造が作成されます。このフォルダ構造内で、[CIMC] フォルダを検索します。

このフォルダ内に、イメージファイルがあります。ファイルは、拡張子 **.bin** で保存されています。通常、イメージファイルは、次の形式でラベル付けされています。

upd-pkg-[ボード名]-m1-cimc.full.[最新のファームウェアバージョン].bin

次に例を示します。

upd-pkg-c200-m1-cimc.full.1.2.0.16.bin

ステップ 3 イメージファイルが使用できるディレクトリのフルパスを確認します。

ファームウェアバージョンを更新する場合、完全なパスとファイル名を指定する必要があります。

最新バージョンにファームウェアを更新

サーバにインストールされている現在のバージョンを確認したら、バージョンを最新バージョンに更新します。この手順を完了するためには、www.cisco.com から最新のファームウェアバージョンをダウンロードし、サーバのディレクトリにコピーしておく必要があります。最新のファームウェアバージョンのダウンロードの詳細については、「[最新のファームウェアバージョンのダウンロード](#)」(P.2-2)を参照してください。

ファームウェアを更新する前に、ダウンロードした最新のファームウェアバージョンがサーバでサポートされていることを確認します。ファームウェアバージョンの詳細を表示するには、次のコマンドを入力します。

./fwup cimc に表示されるバージョン upd-pkg-[ボード名]-m1-cimc.full.[最新ファームウェアバージョン].bin

このコマンドに対して、次の表示が出力されます。

```
Copyright (c) 2010 Cisco Systems Inc.  
All rights reserved.
```

```
Binary Image Information  
-----
```

```
Platform: c200
```

```
Version: 1.2.0.22
```

```
Images: u-boot.bin, uImage, flashfs, ramfs
```

```
Filename: ./root/upd-pkg-[board-name]-m1-cimc.full[latest firmware version].bin
```

```
Size: 184899104 bytes
```

ファームウェアバージョンを更新するには、次の 2 種類の主要な手順があります。

ステップ 1 イメージの転送

ステップ 2 イメージのフラッシュ



(注) システム ファームウェアバージョンの更新には、最低 15 分間かかります。イメージの転送に 3 分間程度、イメージのフラッシュに 12 分間程度かかります。合計で、ファームウェアの更新処理には 15 分間かかります。システムに悪影響を及ぼすため、更新の開始後にはプロセスを終了しないことを推奨します。

ファームウェアバージョンを更新するには、次のコマンドを入力します。

./fwup cimc update <ファイルを使用する場所の完全なパスとファイル名>

次に例を示します。

./fwup cimc update /root/sw/fw_pkgs/update-pkg-c200-m1-cimc.full.1.2.0.16.bin

このコマンドにより、ファームウェアバージョンの更新が開始されます。ファームウェアの更新中は、次の表示が出力されます。

```
Copyright (c) 2010 Cisco Systems Inc.
All rights reserved.

Locked the front panel.
Current Firmware Version
-----
Running Version: 1.2.0.14
Backup Version: 1.2.0.14
Transferring Image:
-----
Host to CIMC Filesystem .... 100%
Flashing the CIMC firmware:
-----
Complete: 100% / Stage: SUCCESS
Unlocked the front panel
Total time taken for the update: 10.07
You must reset the CIMC to use the latest firmware version.
Run the "cimc activate" command to reset the CIMC.
```



(注)

- ユーティリティの以前のバージョンでは、メッセージは前面パネルがロックできないことを示していました。このメッセージがコンソールに表示された場合は、ファームウェアの更新開始時に、該当サーバ上でタスクを実行している他の管理者がいないことを確認する必要があります。ユーティリティの現在のバージョンでは、前面パネルがロックされ、他の管理者がサーバのメンテナンスタスクを実行できないようにします。ファームウェアバージョンの更新後に、前面パネルのロックが解除されます。
- 更新が Ctrl+C キーを使用して終了された場合、ファームウェア更新は異常終了しません。バックグラウンドで実行が継続されます。後で更新状態を表示するには、**./fwup cimc show updatestatus** コマンドを再入力します。

ファームウェア更新の状態の確認

Linux サーバの CIMC ファームウェアのバージョンを更新する場合は、複数のコンソールで作業が可能です。一度に複数のコンソールを実行できる場合は、そのうちの 1 つにファームウェア更新の状態を表示できます。ファームウェアの更新プロセスの状態を表示するには、次のコマンドを入力します。

./fwup cimc show updatestatus

このコマンドにより、ファームウェアバージョン更新の完了度が表示されます。以下は、表示される出力のサンプルです。

```
Copyright (c) 2010 Cisco Systems Inc.
All rights reserved.

Firmware Update Status
-----
Legacy Update: 10 (In progress)
Percent Complete: 88
Stage Data: INSTALL
```



(注) 更新が **Ctrl+C** キーを使用して終了された場合、ファームウェア更新は異常終了しません。バックグラウンドで実行が継続されます。後で更新状態を表示するには、**/fwup cimc show updatestatus** コマンドを再入力します。

最新のファームウェアのアクティブ化

ファームウェアの更新が完了後、使用するためには、更新したファームウェアをアクティブにする必要があります。ファームウェアをアクティブにするには、コマンドプロンプトで **activate** コマンドを入力します。更新したファームウェアをアクティブにするには、手動または、CIMC Web UI の [Power Cycle] オプションを使用して、サーバの電源を切ります。更新後、ファームウェアはいつでもアクティブにできます。ユーティリティを使用してファームウェアをアクティブにするには、次のコマンドを入力します。

./fwup cimc activate

ファームウェアをアクティブにするためにこのコマンドを入力すると、CIMC はリセットされます。



(注) CIMC Web UI で進行中のタスクの中断を避けるためには、タスクが完了してから更新したファームウェアをアクティブにします。更新したファームウェアをアクティブにするまで、サーバは以前にインストールされているファームウェア バージョンを使用します。

activate コマンドに対する出力の例を、次に示します。

```
Copyright (c) 2010 Cisco Systems Inc.  
All rights reserved.
```

```
Issuing Activate Complete command..... SUCCESS  
CIMC will reset.
```

activate コマンドにより、CIMC はリセットされます。接続が失われるため、CIMC Web UI を使用して進行中のタスクはすべて異常終了します。



(注) CIMC ファームウェア バージョンの更新のために KVM を使用して Linux サーバまたは EFI シェルにログインしている場合は、**activate** コマンドを実行すると、CIMC への接続がリセットされます。その結果ネットワーク接続が中断され、KVM ウィンドウは閉じます。

旧ファームウェアのバージョンへの復帰

以前にインストールされたファームウェア バージョンに戻らなければならない場合があります。最新バージョンをインストールしてアクティブにした後でも、旧バージョンに復帰することができます。これには、CIMC Web UI の次のオプションを使用します。

```
[Admin] > [Firmware Management] > [Activate CIMC Firmware]
```

ただし、インストールされている旧バージョンに復帰するためには、ファームウェア アップデート ユーティリティを使用することができません。ユーティリティを使用してインストールされている旧ファームウェア バージョンに戻すには、www.cisco.com から旧バージョンをダウンロードした後に、ユーティリティを使用して更新しアクティブにする必要があります。

■ 旧ファームウェアのバージョンへの復帰



CHAPTER 3

トラブルシューティング

この章の内容は、次のとおりです。

- 「エラー メッセージについて」 (P.3-1)
- 「問題のあるシナリオ」 (P.3-2)

エラー メッセージについて

表 3-1 には、CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの動作中に表示される可能性のあるエラー メッセージが一覧表示されています。また、エラーを解決するために、ユーザが従うべき是正措置も示されています。

表 3-1 エラー メッセージの原因と解決

エラー メッセージ	原因	是正措置
Invalid argument または Invalid number of arguments	入力したコマンドの構文が正確でない場合に表示されます。	表示されたヘルプから正しい構文を確認し、コマンドを変更します。詳細なヘルプを表示するには、次のコマンドを入力します。 ./fwup cimc help
Filename does not exist.	ファイル名またはファイルへのパスが正しくない場合に表示されます。	まず、入力したファイル名が正しいかどうかを確認します。次に、指定したシステム上でのファイルへのパスが完全なことを確認します。
This version of CIMC does not support firmware updates from the host.	現在実行中のファームウェアがホストベース ファームウェア更新をサポートしていない場合に表示されます。	CIMC の現在のバージョンは、ホストベースのファームウェア更新をサポートしていません。CIMC Web UI を使用する必要があります。
FW upgrade not possible	ホスト上で CIMC Web UI または CIMC CLI を通じたファームウェアの更新が実行中の場合に表示されます。	CIMC Web UI または CIMC CLI を使用して他の管理者がすでに更新中の場合には、ファームウェアをアップグレードすることはできません。 ファームウェアの更新プロセスの現在のステータスを表示するには、次のコマンドを入力します。 ./fwup cimc show updatestatus

表 3-1 エラーメッセージの原因と解決（続き）

エラーメッセージ	原因	是正措置
Could not open the IPMI interface to CIMC.	IPMI デーモンが実行されていない場合に表示されます。	Linux サーバで、 <i>ipmi/dev</i> サービスが利用可能であることを確認します。 service ipmi start コマンドで、 <i>ipmi</i> サービスを開始します。このコマンドを実行するには、 root ユーザまたはスーパー ユーザである必要があります。 サービスが開始されない場合は、 modprobe を使用して、 <i>ipmi_si</i> 、 <i>ipmi_devintf</i> 、 <i>ipmi_msghandler</i> の3つの <i>ipmi</i> モジュールをロードします。
Invalid filename extension	ファイル名の拡張子が <i>.bin</i> ではありません。	http://www.cisco.com からダウンロードしたファイル名に <i>.bin</i> 拡張子が付いていることを確認します。
Error in flashing the file.	http://www.cisco.com からダウンロードしたファイルが壊れている可能性があります。	もう一度 http://www.cisco.com からファイルをダウンロードし、CIMC ファームウェアバージョンを更新します。

問題のあるシナリオ

問題

サーバのファームウェアバージョンの更新中に、更新プロセスが突然終了したり、**Ctrl+C** キー オプションを使用して更新プロセスを終了した場合は、サーバの前面パネルはロックされたままになります。

ソリューション

次のコマンドを使用して、前面パネルのロックを解除します。

```
./fwup cimc frontpanel unlock
```

その後、サーバで他のタスクを実行するために前面パネルをロックするには、次のコマンドを使用します。

```
./fwup cimc frontpanel lock
```



INDEX

い

インストール

EFI シェルを使用 [1-3](#)

Linux サーバ [1-1](#)

こ

更新

転送 [2-3](#)

フラッシュ [2-3](#)

し

使用方法

`./fwup cimc activate` [2-5](#)

`./fwup cimc frontpanel lock` [3-2](#)

`./fwup cimc frontpanel unlock` [3-2](#)

`./fwup cimc help` [3-1](#)

`./fwup cimc show updatestatus` [2-4](#)

`./fwup cimc show version` [2-2](#)

`./fwup cimc update` [2-4](#)

概要 [2-1](#)

前提条件 [1-1](#)

ろ

ロック

前面パネル [2-4](#)

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>